



### ～みんな大事(いじめはダメ)～

「虫にも命があるんだから、逃がしてあげたほうがいいよ。」「ぼくたちも袋の中に入ったままだったら、息ができないでしょ。」「……………。(袋をもったまま考えている様子)」

ある日の青空の時間(中休み)での、1年生の男の子同士の会話です。2000年パーク(低学年が遊ぶ遊具のある場所)には草が青々と生い茂り、バッタをはじめたくさんの生き物たちも姿が見せています。虫取りを楽しんでいたその子は、袋いっぱいにはバッタを集め、とても満足そうに、そして嬉しそうにしていました。教室に戻る合図のチャイムが鳴ると、この2人の男の子たちは最後まで2000年パークに残り、袋の中に集めたバッタをどうすればよいか、考えていました。

体験から様々なことを学び、仲間の意見に耳を傾けながらどうすればよいかを考えることを通して、子どもたちは豊かな心を育てていくのだと感じました。2人のやりとりの素敵な場面に立ち会うことができ、なんだかほっこりした気持ちになりました。

さて、6月26日に、「ひびきあい集会」が開かれました。集会では、執行委員が『自分が困っている時や、不安な時に、どんな言葉かけや行動をしてもらおううれしい気持ちになるか』を劇にして、全校のみんなで考えました。

その後、令和7年度城西小学校『いじめゼロ宣言』が発表されました。



#### いじめゼロ宣言

- 1 あいての気持ちを考える。
- 2 いやなことがあったら、だれかにそうだん
- 3 こまっている人をほっとかない



さらにその後には、クラスごとに大切にしたい「ふわふわ言葉」と、「こんなクラスにしたい」という発表がありました。各クラスから出された「ふわふわ言葉」は、

「ありがとう(全15クラスすべてのクラスから出されたふわふわ言葉です)」「だいじょうぶ」「すごいね」「いいね」「一緒に遊ぼう」「手伝おうか」「がんばれ」「一緒にがんばろうね」「毎日がんばっていてすごい」「かっこいいね」「おはよう」「よかったね」「じゃあね」「だいすき」「楽しいね」「おめでとう」「こまってる」「すてきだね」「ナイス」「一緒にやろう」「何かできることある」「一緒に〇〇しよう」「どういたしまして」「教えようか」「ここわかる」「教えてあげようか」「はいよろこんで」「ファイト」「ドンマイ」「元気出して」

たった一言の言葉ですが、「言葉のもつ意味・力」「一言の重み」を引き続き子どもたちに指導していくとともに、私たち大人も、「ふわふわ言葉」を自然につかうことが、子どもたちにとっても安心してらせることにつながるのではないかと思います。

自分も大事。家族も、クラスの仲間も、友達も、みんなみんな大事です。みんなを大事にするための方法の1つが「ふわふわ言葉」をつかうことです。

みんなを大事にすることができる魔法の言葉「ふわふわ言葉」を、これからも大切に、「元気で笑顔」な城西小学校にしていきたいです。



「城西サポート隊」による七夕飾り